

◆ 「平成 28 年度宮城県歯と口腔の健康実態調査」 調査結果抜粋

平成 28 年度第 3 回歯科保健推進協議会（平成 29 年 3 月 29 日）にて
調査結果概要説明済み

1 8020 達成者（80 歳で 20 本の歯が残っている人）の割合について

「平成 28 年宮城県歯と口腔の健康実態調査」（以下、「県調査」と言う。）においては、80 歳で現在歯が 20 本以上の 8020 達成者は、80～84 歳の年齢階級では 41.2%であった。

2 歯肉の状態について

県調査においては、大多数の年齢階級において、歯周疾患を有する者（歯周ポケットが 4mm 以上の者）の割合が 50%を超えていた。

前回調査（平成 24 年度）と比較すると該当者合計の割合が 10 ポイント増加し、40～54 歳の年齢階級で大きく増加した。

3 口腔内診査所見について

県調査において、診査項目の口腔清掃状態では、「良好」が 3 割、「普通」が 5 割、「不良」2 割であった。

前回調査（平成 24 年度）と比較すると「良好」が 1.6 ポイント増加したが、「不良」も 6.9 ポイント増加した。

4 歯や口の状態について

県調査においては、主な口腔内症状を並べて『次のような歯や口の症状がありますか(複数回答可)』の問いに対しては、一番多かったのは『食べ物がはさまる』であり、『歯がしみる』、『口臭が気になる』、『歯並びが気になる』がそれに続いた。

口腔内症状の無い者は、3.2%であった。男女別とも症状を有すると回答した者が 9 割以上あった。

また、年齢層により症状の内容が異なった。